

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年3月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670800178
法人名	社会福祉法人 鶴寿会
事業所名	グループホーム ひまわり
所在地	鹿児島県出水市汐見町89番地 (電話) 0996-67-3187
自己評価作成日	平成30年1月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成30年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひまわりでは、家庭的な雰囲気の中では笑いがあり「自分らしい生活」が送れるように協力し合い過ごされています。ホームの窓からは松の木林の先に一面に不知火海が広がり遠くに浮かぶ船がキラキラと、島影を歩く姿が見られます。

この恵まれた自然の中で、ご利用者の皆様に季節を感じて頂けるように行事を行っています。4月には近隣の東光山に桜見学に出掛けました。満開の桜に感動されていました。7月は恒例の法人の夏祭りでした。ご家族や知り合いの方々と踊りや、わたあめ・かき氷をいただきながら花火と名物「ナイアガラ滝」を楽しまれました。

住み慣れた「わが町」で笑顔いっぱい過ごせるように今後も取り組んでいきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは、法人母体の特別養護老人ホームを中心に養護老人ホーム・デイサービスセンターなどと隣接しており、地域の高齢者福祉の一端を担っている。法人で実施される季節毎の行事等で職員・利用者全体の交流が行われ、緊急時や外出時もスムーズな支援を行い、法人内職員の協力体制が整っている。

- ・協力医療機関との24時間医療連携体制及び法人内看護職員の協力があり、利用者・家族の医療面における安心となっている。利用者の状況に応じた施設選択等の支援も、本認・家族の意向に沿って行われている。

- ・法人の夏祭りやイルミネーションは多くの住民参加があり、利用者との交流の機会となっている。ホームで高校生の実習や小・中・高生のサマーボランティア等を受け入れたり、認知症サポート相談窓口を設置する等、住民との交流及び地域貢献に取り組んでいる。

- ・保育施設等が整備され、育児中の職員も安心して勤務できる。長期休暇取得等、就業環境が整っており離職者も少ない。

- ・利用者が笑顔で過ごせるように、ゆっくりと話を聞き思いをわかり、ケアに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り毎日朝礼時に理念を唱和している。理念は「さりげない見守り」「家庭的な雰囲気づくり」「その人らしさを大切にケアします」としている。	地域との関連性を踏まえた独自の理念で事業所内に掲示し、重要事項説明書にも明記している。毎日の朝礼時に唱和している。職員会議等で振り返り、理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	法人全体で開催される夏祭りには家族や多くの地域の方々の参加があり、交流を図っている。又、踊り等のボランティアや高校生の介護実習等も積極的に受け入れている。	小学校運動会の見物や十五夜などの地域行事に積極的に参加し、法人全体の夏祭りや敬老会・年末のイルミネーション等に多くの地域住民の参加がある。小・中・高校生のサマーボランティア受け入れも行っている。家族からの野菜の差し入れなどもある。認知症サポート相談窓口として地域に貢献している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	認知症等に関していつでも相談に応えられる認知症サポート相談窓口として地域に紹介されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議には、利用者・家族代表・民生委員・地域代表・地域包括支援センター・法人評議員等が出席し行事の実施報告・研修報告・ヒヤリハット報告を行い、話題は限定せずに意見交換してサービスの向上に活かしている。</p>	<p>会議は定期的開催している。事業所の状況やヒヤリハットの報告・外部評価報告などを行い、意見交換をしている。地域でのヒヤリハットの情報をケア会議で検討している。家族の悩みや相談ごとに気軽に応じる等、サービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市担当者とは、日頃から制度や各種の手続きに関する相談を訪問や電話で行い、状況に応じた助言や・指導を受け連携を取っており、協力関係が築かれている。</p>	<p>市担当者には、制度や各種手続きの相談など、電話や窓口に出向き助言を貰っている。生活保護の担当者とも連絡合っている。地域包括支援センターに講師を依頼して認知症サポート養成講座を受講するなど、協力関係を築いている。市主催の研修会にも積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修を市の包括支援センターに講師を依頼し毎年度実施し積極的に参加して理解を深めるとともに、日々の支援の中で身体や言葉による拘束のないように努めている。</p>	<p>市の協力で研修会を実施し、職員の理解を深めている。不適切な言葉は職員間で注意し合っており、日中は玄関の施錠はせず、外に出て行く利用者には付き添って散歩をするなど、拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設内研修に「人権について」を取り入れ外部から講師を招いて行っている。日頃から身体や言葉での虐待については職員相互で注意を行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護、並びに人権に関する施設内研修を毎年度行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書や重要事項説明書の該当箇所を示しながら口頭で説明し、家族の不安解消に努めている。また、退去時も十分な説明を行い、納得してもらっている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議や来訪時の対話の際に、遠慮のない意見や要望等を頂き運営に反映している。</p>	<p>利用者には日々の生活の中で要望等を聞いており、家族には運営推進会議で意見を出してもらったり、面会時に近況報告を行うと共に要望等を聞いている。家族の悩みや本人の状況を聞いたりして、その都度対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>代表者は、法人事業所全体の職員会議や運営会議を通して意見や要望を聞いて業務改善や利用者のサービス向上に反映できるように取り組んでいる。</p>	<p>年1回の合同ケア会議や月1回のユニット会議で職員の意見を聞いている。経済面も考慮した排泄用品の検討やケア手順の統一等の提案があり、意見等を活かして業務改善に取り組んでいる。個別相談は主任が受け必要に応じ事務長へ繋いでいる。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>昇級、賞与等定期的に行っている。各人のスキルアップのために便宜を図っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勤務のローテーションを図りながら全職員が研修を受ける機会を得られるように配慮している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>出水・川薩支部認知症グループホーム連絡協議会に加入し、研修に参加し、お互いの研鑽を重ねている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用者の訴えに対して、出来る限り傾聴している。時に個別で対話を行う事により安心感を高めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居時には、これまでの生活状態、心身状態を聞き取り、問題になっている事や要望を明確にした上で、ホームでどのように過ごしていきたいのかを伺っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族が今現在困っている事は何なのかを聞いて対応している。現在、満床のため即入居できないので、他サービス利用や他機関への紹介等を行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>全員一律ではないが、掃除など職員と一緒にいき、自分の役割として取り組んでいる入居者もいる。日常生活の中で入居者、職員が互いに支え合ったり学びあったりしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加、通院への同行、状態の変化など事あるごとに連絡、相談を行いご協力を頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に沿って行事への参加や馴染みの人や場との関係継続に家族と連携して支援している。遠方に居住している家族とは電話や手紙の取り次ぎ等により関係性の継続に努めている。	家族と一緒に馴染みの美容室利用や外食等で外出したり、家族からの電話や手紙を取り次ぐ等で関係を継続できるよう支援している。友人・知人の面会の際も馴染みの関係が途切れないよう、配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	暮らしの中心となるリビングでは、一緒に洗濯物を畳んだり運動、カラオケ、テレビ等を通じて交流を深める場を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	重度化に伴いグループホームから医療機関、併設特養に入所された人がいる。職員と本人、家族のなじみの関係は今も続いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から思いや意向をくみ取るように努めている。申し送りやケース記録で情報の共有を図り、家族とも相談しながら利用者にとってよりよい支援となるよう努めている。	日々の関わりの中で耳を傾けて、言葉や表情などから思いや意向の把握に努めている。入浴時間や食事の時によく話をしていいる。申し送りやケース記録で情報の共有を図っている。困難な場合は家族や関係者からも情報を得、利用者の視点に立って職員で話し合い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にキーパーソンとなる家族から生活歴を伺うこと以外に、ホームで暮らしている中で知り得た本人の暮らしの一端を記録に残し、職員全員で共有し活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活のリズムを理解し、行動や言葉、表情からその人の全体の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞き取りケア会議で検討して利用者本位の介護計画書を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施している。	初回は本人・家族同席の会議を実施している。2回目からは意向を確認し、ケア会議等で話し合い個々に応じた介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の個別記録に記入し職員間で情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況を見ながら、家族の要望に応じられるように、各事業所との連絡を行う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練に消防署の立合いを求め指導を仰いだり共同の訓練を行っている。また、家族の面会や外出の機会をつくり楽しみのある日々になるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関での受診を支援している。通院は職員が同伴し、受診前には家族に連絡を行っている。また協力医療機関の定期的な往診があり、緊急時の医療連携も構築されている。	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関による月2回の往診及び緊急時の医療連携体制を構築している。専門医等の他科受診は家族の協力を得て対応し、職員同行の場合は、家族に結果を報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医の看護師などとよく相談し、健康管理に努めている。また、併設施設の看護師の協力ももらっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者の入院に際しては、疾患の状態が長期の入院加療を要するもの以外は病院関係者と密に連携して早期退院に向けた話し合いを行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期については、利用開始時に説明して同意を得ている。状態変化時の対応も主治医の指示の下に行う事を家族にも説明を行っている。</p>	<p>契約時に、重度化や終末期に伴う対応の指針を説明し、同意を得ている。事業所でできる事やできないことを説明し対応している。同法人の特別養護老人ホームの入所申し込みをしている利用者もいる。状況変化に伴い家族と話し合い、方向性を共有できるよう取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変、事故のマニュアルを備えて発生時に備えている。定期的に急変時、事故発生時、火災発生を想定した訓練を行っている。また、法人での研修会に参加し実技指導を受けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署立合いで、火災・地震を想定した法人全体の避難訓練を実施している。災害時は、隣接の特養からの協力体制が確立されている。</p>	<p>年2回消防署立会いのもとで、昼夜想定避難訓練と年1回自主訓練を実施し、利用者も参加している。スプリンクラーや緊急通報装置も設置し法人内の協力体制もできている。備蓄も法人で水・米・調味料・介護用品などを準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないよう日頃から言葉遣いや対応に心掛けている。	定期的実施される法人研修に参加している。事業所でも勉強会を行って職員の資質向上に取り組んでいる。名前は「さん」付けで呼びかけている。難聴者への対応・入室時・入浴・トイレ誘導などは、羞恥心に配慮するなど、日頃から誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	物事が複雑である場合は必ず選択して頂く様に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われる事が多い中で、利用者との共同作業を通じて共に歩むケアに取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節に合った衣服の調整に努めている。散髪は本人もしくは家族の要望によって行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好、食事形態、服薬中の薬の影響等を把握して、特養の栄養士が作成した献立表で調理している。食材の下ごしらえや下膳等は利用者も一緒にやっている。	菜園の野菜や旬の食材を活用し嗜好に配慮した献立を作成している。個々に応じた食事形態を工夫している。食事の下ごしらえや片付けなど職員と一緒にったりもしている。一人ひとりの誕生日には赤飯を提供し、行事食は法人全体で食事会を実施し、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事の摂取量のチェック水分摂取の把握を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後働きかけを行い口腔ケアを行っている。出来る方は見守り、出来ない方は洗面所まで誘導し促しや介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握し羞恥心にも配慮しながら可能な限りトイレで排泄出来る様に支援している。	一人ひとりの排泄パターンやリズムの把握に努め、トイレでの排泄や排泄の自立を支援している。夜間はポータブルトイレやオムツなど個々に対応している。特にトイレ周辺の掃除は入念に行い清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜やイモ類等食物繊維を取り入れ水分補給に努めている。施設内の歩行や散歩など運動への働きかけを行っている。排泄チェックは毎日行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的に入浴日を決めているが利用者の体調や希望にあわせて対応している。	週3回の入浴を基本に午前中に実施し、入浴剤を使用してゆっくり楽しんでいる。脱衣室もエアコンで調整している。体調による清拭やシャワー浴を行い、同性介助にも対応している。嫌がる場合はタイミングをみて声かけをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調に合わせて、自室での休息や臥床を促している。また、気持ち良く休まれるように天気の良い日は寝具を干し清潔を保っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が十分に理解し服用の間違い、誤薬のないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケ、散歩、ゲーム等その方に応じた個別支援に努めている。また、特養の行事にも参加し楽しんでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	行事計画書を立て桜見物、バラ見物、鶴見物等戸外に出かけている。また、家族と協力しながら外で一緒に食事をする機会をつくり外出支援に努めている。	日常的に散歩をしている。年間計画での外出は、法人の運転手付きリフト車で、桜・バラの花見、鶴見物などに出かけている。家族と外食や法事等で外出・外泊する利用者もあり、家族の協力も得ながら出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の所持については本人、家族と相談の上、本人管理となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話や手紙のやり取りは自由に行っている。また本人が出来ない場合は職員が手伝っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の食堂と談話室の壁には利用者が作成した季節感のある作品を飾っている。利用者が居心地良く過ごせるように座席の配慮をしている。	中庭に面して食堂・キッチン・リビングがあり、加湿器やエアコンで快適な空調設備が整った室内環境である。リビングの壁に雛飾り等の季節の作品や手作りカレンダーが掛けられ、ソファでゆったりとくつろげるよう、配置にも工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共通空間の談話室では、テレビを観たり、カラオケで唄ったり、また各々会話を楽しんでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台、ベッド、エアコン、タンス、椅子が備えてある。本人や家族の希望により家族写真、ラジオ、携帯電話を持ち込み居心地よく過ごせるように工夫している。	居室は洗面台・ベッド・エアコン・タンス・椅子が備え付けである。布団はリースで清潔に管理されている。ラジオや時計・衣装箱・写真など、使い慣れた物や家族の思いが伝わるものが持ち込まれ、居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室に手すりを設置している。廊下には足元ライトをつけ安心してトイレに行けるように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない